

研究・調査報告書

報告書番号	担当
380	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Inverse Relationship Between Moderate Alcohol Intake and Rectal Cancer: Analysis of the North Carolina Colon Cancer Study. 中等量のアルコール摂取と直腸癌との逆比例関係: Analysis of the North Carolina Colon Cancer Study</p>	
執筆者	
Crockett SD, Long MD, Dellon ES, Matin CF, Galanko JA, Sandler RS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Disease of the Colon and Rectum. 2011 Jul ; 54(7)887-894	
キーワード	
結腸直腸癌、直腸癌、アルコール、ケースコントロール、疫学、ワイン、ビール	
要 旨	
<p>背景： アルコール摂取と直腸癌との関係ははっきりしない。アルコール摂取結腸直腸癌や直腸癌に特異的に関連しているかどうか評価する。</p> <p>方法： アルコール摂取に関するデータが、中部及び東部のノースカロライナ州の 33 郡から収集された集団ベースの遠位結腸・直腸癌のケースコントロール研究である North Carolina Colon Cancer Study から検討された。ケースは直腸、直腸 S 状結腸あるいは S 状結腸に腺癌を有した者とし、コントロールは年齢、人種、性別にてマッチングされた。アンケートを使用して、人口統計と食事摂取のデータが集められた。アルコール摂取と遠位結腸直腸癌との関連性についてロジスティック回帰を用いオッズ比を推定した。</p> <p>結果： この研究には 1033 名のケースと 1011 名のコントロールが含まれた。飲酒しない群と比較したその他の群の直腸癌のオッズ比は、年齢、性別、人種、喫煙状況、肥満、教育、赤身肉摂取、NSAIDs 使用そして結腸直腸癌の家族歴で調整して、0.73(95%信頼区間 0.60～0.90)であった。中等量飲酒(14 g/日以下)のオッズ比は 0.66(95%信頼区間 0.53～0.82)で、大量飲酒(14 g/日より多い)のオッズ比は 0.93(95%信頼区間 0.70～1.23)であった。中等量のビールやワインの摂取もまた、遠位結腸直腸癌と負の関連にあった：ビールのオッズ比 0.76(95%信頼区間 0.60～0.96)、ワインのオッズ比 0.69(95%信頼区間 0.56～0.86)。この研究は後ろ向き観察研究である。残渣交絡因子が存在する可能性がある。</p> <p>結論： この研究では、中等量のアルコール摂取(特にワイン)が遠位結腸直腸癌と負の関連にあった。</p>	